



アイルランドの西部はコナートと呼ばれている地域である。コナートはアイルランドの中でも、自然の美しさと感じることのできる地域で、中心となるのはゴールウェイである。ゴールウェイ以外にはスライゴ、ウェストポート、ボイルといった小さくても魅力的な町がある。さらにアラン諸島があるのもコナートである。アラン諸島は今なおゲール語が使われているところで、毎年夏には多くの旅行者がここを訪れている。

まずゴールウェイから見ていきたいと思う。ゴールウェイはアイルランド西部の中心都市なので、ダブリン空港からシティリンクのバスで乗り換えをしないで行くことができる。ゴールウェイにはゴールウェイ大学があり、アイルランド文化研究で有名である。ゴールウェイにはゴールウェイ大聖堂や聖ニコラス大聖堂といった寺院があるだけでなく、近代的なショッピングセンターもあり、パブやレストランも数多くある。私は2年前にゴールウェイを訪れたとき、ダブリンからのバスの終点（ゴールウェイ観光局前）に近いところに位置するB&Bに宿をとったが、親切で居心地がよかったことを覚えている。

ゴールウェイを拠点としてアイルランド西部のパレン高原、モハーの断崖、コネマラ国立公園といった地域を訪れることができる。パレン高原は果てしなく続く石灰岩の丘陵地帯で、不思議な形をした巨石を見ることができる魅力的な所だ。さらにここは動植物の種類もとても豊富である。モハーの断崖は、アイルランドの西海岸において、約200mの高さの絶壁が8kmも続いているところである。コネマラ国立公園においても森や溪谷や岩山が見られ、アイルランドの豊かな自然を感じることができる。

ゴールウェイから北東にしばらく行ったところにあるスライゴという町は、アイルランドを代表する詩人であり、作家であるW・B・イエーツ

の故郷である。イエーツはアイルランドに伝わる妖精に関する物語を集め、出版した。イエーツはまさしくアイルランドの民間伝承復興運動の中心者であった。イエーツが集め、出版した民間伝承の妖精についての物語は、アイルランド文化を見るにあたって、欠かすことのできない重要なものとなっているように思える。スライゴはイエーツゆかりの町であるだけでなく、キャロウモア古代遺跡のある町でもある。キャロウモア古代遺跡は、アイルランドの先住民の遺跡でケルト人がアイルランドに到来するよりもはるか以前に造られたものである。

アラン諸島はイシュニモア島、イシュニマーン島、イニシヤ島の3つの島からなっており、石灰岩でできた地形が広がっている。これらの島にはB&Bをはじめ宿泊施設もあるので、ゆっくりしたければ、島に泊まっておいしい食事でもしながらアラン諸島を楽しむことができる。アラン諸島のうちで最も大きく、中心となっている島がイシュニモア島である。イシュニモアという言葉自体がゲール語で「大きな島」という意味である。私が以前夏にイシュニモア島を訪れたときには、船は多くの旅行者でいっぱい、この島が人気の高い観光地となっていることが感じられた。イシュニモア島には海を見下ろす断崖に建てられた古代の要塞「ドン・エンガス」がある。この要塞は今から約2,000年前に建てられたと考えられている。島には修道院や教会や砦の跡もある。アラン諸島はアランセーターの故郷なのだが、アランセーターに描かれた模様には様々な意味があるとされている。イシュニモア島のキルロナン村にはアランズ・ヘリテージ・センターがあり、ここでアラン諸島の歴史や生活様式を学ぶことができる。

アイルランドは緑が大変鮮やかで、ケルト文化の遺跡や美しい自然や歴史ある町を体感することができる島である。アイルランドには妖精に関する物語も数多く残っており、アイルランドを旅していると、妖精が本当に存在するのではないかと思えてくる。機会があれば是非またアイルランドを訪れたいと思っている。

さわだ としあき（教授・西洋史）